

## 中等9回生、卒業!

去る3月1日、晴天に恵まれた中、第9回卒業証書授与式が行われ、中等9回生125名が新たなステージへの旅立ちの時を迎えました。これで中等教育学校の卒業生数は1,276名となりました。

## 9回生学年幹事より

9回生同窓会幹事になりました、出口龍と長野愛加です。まだ卒業式から1ヶ月も経ちませんが、どこか寂しい気持ちがあります。皆様いかがお過ごしでしょうか。

中等での6年間を振り返ると、9回生は「変」な人の集まりであるように感じます。それゆえに、先生方から叱責を受けることも多かったですが、同時に、その個性によって様々な困難を乗り越えてきたのではないのでしょうか。例えば、第9回兔原祭では、コロナ禍という前例の無い中での「創造」となりましたが、実行委員を始めとする9回生（ほぼ）全員が「協同」したことで、兔原祭だけでなく、附属の教員と生徒の関係を変え、「自治」を体現する学校へと近づいたように感じます。そして、後輩がさらに学校生活を深化させていってくれていることを見て、附属の未来が輝かしいものであることを確信しています。

さて、私たちが考える同窓会は主に3つの役割があると思っています。1つ目は、人生で最も濃密な6年間を過ごした仲間と、和気藹々と語り合える場となること、2つ目は、今後各界で活躍していく（している）附属生と刺激を与えあう場となること、3つ目は、卒業生と、在校生をつなげ、附属をより発展させていく場を作ることです。困難にぶつかった時に、同窓会が温かいホームとなればと願っています。

最後になりましたが、9回生の一員として6年間を過ごせたことを誇りに思うと同時に、9回生を支えてくださった全ての方に感謝を申し上げます。これからは、附属生の横のつながりの維持、そして、縦のつながりの一層の強化に努めていきます。今後も9回生の活躍にご期待ください！（9回生のみんなへ）また元気な姿で会おう！

## 9回生学年主任 真田先生より

4年前（前期課程3年時）に緒方先生から9回生の担当を引き継ぎ、学年を預かる立場となりました。スタートにあたり、「ひとつ上の自分、集団を目指す」を学年目標に掲げ、これまで生徒とともに歩んできましたが、この4年で、彼らは心身ともに大きく成長したと実感しています。後期課程に入る直前に



出口龍さん、真田弘和先生、長野愛加さん  
(写真左から)





は全国的な休校措置のため、6月に新学期が始まるという厳しい状況の中でも、生徒一人一人が、自分たちにできることは何かを常に考え続け、年度末の3月には、「あおフェス」という独自の学年行事を実現させることができました。今振り返ってみると、この成功体験が、集団として、自らの進路実現に向けて最後まであきらめずに努力を積み重ねる姿勢を生み出したのではないかと思います。

9回生のみなさん、卒業証書授与式では、凛々しい姿を見せてくれてありがとう。みなさんの団結力の強さや行動力には大いに助けられました。学年通信にも書きましたが、今ある自分を肯定し、毎日少しずつ努力を積み重ねていってください。これから先の人生において、困難に直面したときには、附属での6年間の学校生活を思い出してみてください。仲間を信じ、全力で立ち向かってきたみなさんなら、必ず克服できると信じています。私にとっての大きな希望であり、夢であるみなさん一人一人の活躍を心から願っています。またお会いできる日を楽しみにしています。

## 中等7回生成人式!

1月9日、中等7回生が晴れて成人の日を迎えました。午前中はそれぞれの出身地区での記念式典に参加し、久しぶりの再会を楽しみました。成人式が終わるとラスweet神戸ハーバーランド様で中等7回生の同窓会を開催させていただきました。



関西地方を出て就学した卒業生とは約2年ぶりに顔を合わせる人も多くいたため、久しぶりの再会を中等6年間の振り返るビデオと共に懐かし

み、近況報告や大学での出来事、就職活動に向けての話など様々な話題が最後まで尽きませんでした。

中等生活6年間で7回生に携わってくださった先生方にも参加していただき、思い出話に花を咲かせました。同窓会の中ではビンゴ大会も開催し、様々な景品に一喜一憂で盛大に盛り上がりました。式の最後では、クラス写真・学年全体写真も撮ることができ、6年生の時のクラスメイトとの



思い出が蘇るとてもいい時間でした。

2時間があっという間に感じる素晴らしい時間を過ごすことができました。沢山の同級生や先生方と再会することができ、参加者全員にとって刺激になったと思います。参加してくれた7回生のみんな、先生方に大変感謝しております。

定期的にこのような会を開催したいと考えています。7回生のみんなと再び楽しく濃い時間を過ごせることができる日をととても楽しみにしています!

(7回生 江坂・鍛冶)



## ■卒業生だより

### 堀ノ内 陸さん [中等5回生]

附属の皆さん、こんにちは。5回生の堀ノ内陸と申します。

先日、成人式の年にはコロナウイルスの影響で集まることができなかった我々5回生にとっては念願でもあった同窓会を開催しました。ようやくコロナ禍も落ち着きを見せ、今回2年越しとなる同窓会には5回生141名と7名の先生方にお越しいただきました。懐かしい思い出話に花を咲かせたり、お互いの近況を語り合ったりと非常に楽しい時間でした。コロナ禍では思うように人と会うことができない日々が続き、多くの方が歯痒い思いをしてきたと思います。附属でも修学旅行や文化祭といった様々な行事が中止になったと伺いました。そんな時期を経験したからこそ、直接人と会って、相手の顔を見ながら話すことができるありがたさを身に染みて感じることができると思います。小学校から12年間を共にした附属の仲間は一生の友であり、そんな附属の仲間との再会は特別なものと改めて感じました。今後コロナ禍がさらに落ち着けば、各学年だけに留まらず、学年を超えた同窓生の交流の機会があることを楽しみにしております。

私事ですが、この3月に4年間通った東京大学を卒業しました。附属で12年間、言わば敷かれたレールの上を伸び伸びと歩かせてもらった私にとって、附属の外の世界は、大きな決断の連続でした。ですがどんな決断をしたとしても、その決断の先には毎回新たな人との繋がりがあり、まさに全てが一期一会でした。大学入学当初は、化学系の学科に進学する予定でしたが、様々な選択肢の中で迷った挙句、最初は思いもしなかった原子力エネルギーの分野に行き着き、様々な出会いがありました。また大学ではそれなりに強い、所謂ガチのテニスサークルに所属しテニスを続けていましたが、コロナ禍で3000人規模の関東全体のテニスサークルの大会を運営する連盟が崩壊し、あらゆる大会が中止となりました。そんな中、色々な縁があってその連盟の立て直しに携わらせて頂くことを決断しました。絶望的な状況の中で試行錯誤を重ね、スポンサーの方々や各大学、関西といった他地域の方々、はたまた韓国のテニスサークルの方々といった、当初は想像もつかなかった様々な出会いがありました。私自身も大会に出場する中で、スポーツという一種のツールを通じて、絶対に出会うはずのなかった全国各地のテニス仲間とかけがえ

のない繋がりを得ることができました。

長くなりましたが、附属という限定的なコミュニティを飛び出して感じたことは、これから直面する様々な岐路のどんな決断の先にも新たな人とのかけがえのない繋がりがあ、裏を返せば自分自身の決断に正解も間違いもないということです。附属を卒業した同窓生の皆さんの多方面での益々のご活躍をご祈念申し上げるとともに、どこかで邂逅を果たせることを楽しみにしております。



Riku Horinouchi

中等5回生。在学時はテニス部の部長を務め、卒業後は工学部に進学。4月からは大学院生に。



5回生同窓会にて (2023年1月4日)

## 鷺野 諒子さん [中等8回生]

皆様、お久しぶりです。あるいは初めまして、の方も多いかもかもしれません。8回生の鷺野と申します。最近は暖かい日も多くなり、春らしい穏やかな日差しを浴びながら、附属を卒業してから早くも季節が一巡りしたのだと思うと、なんだか不思議な感じがしています。今回この会報への寄稿のご依頼を賜って嬉しく思うと同時に、正直この場を借りてお伝えすべき大した近況報告がないということもあり、とりあえず大学での最初の一年を振り返っての思い出話兼個人的な趣味のお話をさせていただきたいと思います。

題を付けるなら、神戸・芦屋という街、そして私の敬愛する小説家・村上春樹氏についてということになるでしょうか。去年のうちに二度、村上さん関連で神戸と芦屋の街を歩く機会がありました。五月の芦屋浜、そして十一月の神戸の山手を歩きながら村上作品に出てくる場所をめぐるという、いわば聖地巡礼ですね。

『羊をめぐる冒険』という作品には、芦屋川の河口に残された五十メートルの浜辺が登場します。主人公が幼少期を過ごしたこの場所を大人になって再び訪れた際、砂浜は一部を残して他が埋め立てられてしまっており、砂浜の喪失は彼の青春の終わりを告げるものとして印象的に描かれます。しかしこの場面を読んでただ芦屋浜を散歩した私には、主人公の悲しみは到底理解できず、歩いただけではわからないな、と芦屋を訪れた直後は思っていました。けれど神戸の実家に帰省中、近くの家が一望できるお気に入りの埠頭に行こうとしたら塀を乗り越えるのに必要な梯子が外されてしまっているのを見た時、そして長く通った料理屋さんが店を畳んだのを知った時、目の前ののっぺりとした分厚い塀と、閉じられたシャッターの前で立ち尽くしながら、そうか、これがもしかして、そうなのかなと感じました。もちろん、小説の主人公(あるいは村上さん)が体験した喪失は私のそれよりも遥かに大きく圧倒的なものかもしれませんが、それでも。——自分がふと目を閉じている間に、強い風が周囲のものを吹き払ってしまう。次に目を開けた時に周りの景色は確実に変わっている。見慣れたものと今日の前にあるものとの距離はどうしようもなく開いてしまう。これが二つの街を歩いて得たことでした。



五十メートルの砂浜

村上作品を読んでそこに出てくる場所を訪れながら、私は村上さんという人をどうにか理解しようとしているのだと感じます。以前、ある方に「敬愛できる作家を見つけて、深く理解しようとして下さい。そして、自分を真っ直ぐに見つめて下さい」というお言葉を頂いたことがあり、私が敬愛し、そして一生をかけて理解すべき作家は村上さんなのだろうという気が、もちろんただの直感に過ぎず、この先他の作家に魅力を感じることも十分あり得ることなのですが、それでも多分そうなるという予感がしています。自分を見つめる段階にはまだ至っていませんが、とにかく今は一人の尊敬できる作家について考え続けてみようというのが、大学一年目を終えての結論になりそうです。鴨川の桜が満開になると村上さんの新刊長編を心待ちにしながら、今日も村上作品を読み進めていこうと思います。



Ryoko Washino

中等8回生。在学時は家庭科学研究部に所属し、現在は京都大学文学部の1回生。最近は大学近くの喫茶店を開拓中。

# 中等生の活躍!!

(一部抜粋)  
2023年3月 ver.

## ■ FIT

ASOC オンライン国際学生会議 2022

THE BEST HIGH SCHOOL PRIZE

## ■ 国語科

神奈川大学全国高校生俳句大賞 **入選**

## ■ 社会科

世界遺産×SDGs チャレンジ **小論文の部 中学生部門最優秀賞**

## ■ 数学科

和歌山県データ利活用コンペティション **サイバーリンクス賞**

## ■ ESS 部

全国高校生英語ディベート大会 **優秀コンストラクティブスピーカー  
優秀ディフェンススピーカー**

PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 2023 **第4位 ほか**

## ■ コーラス部

兵庫ヴォーカルアンサンブルコンテスト 2023 **金賞 ほか**

## ■ テニス部

兵庫県中学校冬季テニス大会学校対抗の部 **第2位**

## ■ 将棋

全国高等学校文化連盟将棋新人大会 女子個人戦 **第5位**

## ～学校からのお知らせ～

いつも本校教育を応援くださり誠に有難うございます。本校もついに一桁回生が全員卒業してしまい、時の流れを感じます。同時に、たくさんの卒業生の皆様が各大学・企業等でご活躍の様子を耳にする機会も増え、大変嬉しく思っております。

さて、先日学年幹事のみなさまを通じて、OB/OG 講話やキャンパスツアーの引率、その他個別の相談等をお願いする「卒業生サポーター」への登録をお願いしたところ、既に60名を超える皆様からご登録いただきました。たくさんの卒業生から本校教育へ応援をいただき、感謝と身が引き締まる思いで一杯です。まだの方でご関心がおありでしたら、ぜひ右記のQRコード (<https://forms.gle/FurIpitWZ7M4rFhWA>) からご登録お願いいたします。その際、自動返信メールは保存いただき、情報に変更があれば随時更新頂けますと幸いです。

今後とも本校教育を暖かく見守っていただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

「卒業生サポーター」  
登録フォーム

母校の教育活動ために、ぜひ  
ご協力よろしくお願いします。



## ■先生だより

# 篠原 泰子先生

卒業生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。

中等教育学校の教員として最も嬉しいことは、入学から卒業まで、6年間の成長を見ることができるということです。そしてそれ以上に嬉しいのは、附属を去った卒業生が多方面で活躍しているのを知ることです。

昨年3月には、12回生を対象とした進路講演会の登壇者として、卒業生の皆さんにも参加していただきました。当時卒業されたばかりの8回生には受験勉強を中心にとりもためになるお話しをしていただきました。神戸大学に通われている6回生には、附属での学びや当時の生徒会活動について振り返っていただき、医学部を卒業されたばかりの2回生

には、医学部仲間との寮生活や附属の友達の有り難さについて、しみじみと語っていただきました。さらには附属住吉中学校60回生でプロのフラダンサーとして世界で活躍されている先輩、大学時代に鳥人間としてチャレンジを続けられた先輩方のお話を聞き、2年生を終えたばかりの12回生は目をキラキラさせていました。今振り返っても、本当に贅沢なキャリア教育であったと思います。

毎年3月になると、卒業生が本校を訪ねてくれます。たとえ僅かな時間でも卒業生の皆さんと言葉を交わし、皆さんが附属を巣立ってから元気に頑張っている様子を窺い知ることが、日々の悩みや疲れが吹っ飛んでしまうほど、励みとなっています。今後もぜひ機会があれば、母校にお立ち寄りください。益々のご活躍をお祈りしております。

**寄付のお願い** 母校の教育活動の支援のため、寄付への  
ご協力よろしく申し上げます。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



## Yasuko Shinohara

2012年4月に本校に着任し、中等2、4、6回生などの英語の授業を担当。現在は12回生の担任を務める。

## お問い合わせフォーム

### ■ 同窓会の活動に関して



<https://forms.gle/JyN9kAfL5IEN4boi7>

### ■ 広報紙に関して



<https://forms.gle/RyVcpmkeqy4ALDy5>

## ～同窓会からのお知らせ～

■ **新同窓会設立について**：2月の『陽菊 -ひなぎく- 特別号』でお知らせしましたように、3月1日に「神戸大学附属学校園同窓会」が設立しました。今後は明石、住吉の先輩方とともに同窓会活動を拡充していく所存ですので、引き続き卒業生の皆さんのご理解、ご協力よろしく申し上げます。

### 【編集後記】

桜が咲き誇り、春の温かさが肺腑に染み入る季節となりました。皆さん、いかがお過ごしですか？

世間では自粛ムードが晴れ、「3年ぶり」、「解禁」という言葉を耳にするようになりました。空白の期間があったからこそ、「当たり前」の尊さを心底感じます。後になってその有難さを実感するという意味では、同じ環境で長く過ごした同級生の存在も同様だと思います。1回生は成人式以降集まられていませんが、5、7回生に負けないよう(笑)企画したいと考えていますので、ご協力お願いします。

4月から新生活が始まる方も多くいるかと思います。それぞれのフィールドで卒業生が活躍し、満開の花が実りますように、ご自愛ください。(1回生小黑)

(次号は6月30日発行予定です。)